

# よみがえった遺愛の藤

## 藤樹という呼び名

中江藤樹は、慶長13年(1608)3月7日、近江国小川村の大きな藤の木のある家で生まれました。本名は「原」と言いましたが、通称「与右衛門」と呼ばれていました。32歳頃から41歳で亡くなるまで、ここに私塾を開設し、村の先生として尊敬されていました。生家にひときわ大きな藤の木が生えていたことから、村人や門人からは「藤の樹」の屋敷に住まわれている先生、すなわち「藤樹先生」と呼ばれるようになりました。

## 藤樹書院の藤の木

藤樹先生という尊称の由来となった藤の木は、近隣からも眺められるほどの大きな木で、藤樹書院のシンボルとして知られていました。左上の写真は、大正期に撮影されたもので、写真の台紙には「先生遺愛ノ藤満開ノ時」と墨書され、「三羊館謹写」と印刷されています。

この藤のツルは、高さ15メートル前後あるヨノミの木(エノキの別称)に巻きついて、毎年5月の初旬ごろには美しい紫色の花を咲かせていました。しかし、時がた

ち老樹となったヨノミの木と藤は道路にたれかかり、その下を往來するバスや人々の妨げとなりました。倒木の危険が生じるような状況になり、平成11年(1999)12月、根元から伐採されました。

## よみがえった藤の花

みんなに親しまれ、愛された藤の木は、藤樹書院から明治40年(1907)に愛媛県大洲市にある大洲高校に、昭和11年(1936)には鳥取県米子市にある就将小学校に移植されました。現在も「遺愛の藤」として、大切に育てられています。

藤樹書院の北西部には藤棚があります。平成28年(2016)9月

の片隅に、小さな房の藤の花が咲きました。やむなく伐採された切株に程近いところから伸び、芽吹いたものです。23年あまりの年月を経て、再び花を咲かせた「遺愛の藤」は、これからも美しい花を咲かせ、皆さんの心を癒し、楽しませてくれることでしょう。

文化財課 (25)8559

### 【お詫びと訂正】

4月号に次の誤りがありました。お詫びのうえ訂正いたします。  
「網齋書院100周年」3段目の西暦(誤)(1911) (正)(1910)



大正期撮影 満開の藤



令和5年撮影 開花した藤

に補修された藤棚には、大正期に植えられた藤の木がツルや枝を広げ、毎年、長い房の花を咲かせています。昨年その藤棚

この度の異動で7年ぶりに広報担当に戻ってまいりました。気持ちを新たにがんばりますのでよろしくお願いいたします！特に今年度は市制20周年や湖西線開業50周年、次年度は国スポ・障スポと大きいイベントが続きますので、市民の皆さんにわかりやすく情報をお届けし盛り上げていければと考えています。(S)

## 編集感



広報たかしま

令和6年

5

月号

No.292

発行▼高島市 編集▼政策部企画広報課  
滋賀県高島市新旭町北畑5の10番地

0740(25)8000(代)  
https://www.city.takashima.lg.jp  
t:info@city.takashima.lg.jp